

平成 29 年度 第 3 回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

会議の概要

開催日時	平成 29 年 10 月 20 日（金）13 時 30 分から 15 時まで	
開催場所	多摩区役所 6 階 601 会議室	
出席者の氏名	委員	<p>青木義明（多摩区食生活改善推進員連絡協議会）</p> <p>有北いくこ（多摩区こども総合支援連携会議）</p> <p>石井信子（多摩区民生委員児童委員協議会）</p> <p>江口勇次（生田地区社会福祉協議会）</p> <p>大澤敏夫（菅地区社会福祉協議会）</p> <p>大津努（稲田地区社会福祉協議会）</p> <p>岡本次郎（多摩区老人クラブ連合会）</p> <p>和秀俊（田園調布学園大学講師）</p> <p>川澄晶子（多摩区社会福祉協議会地域課）</p> <p>木澤静雄（登戸地区社会福祉協議会）</p> <p>白石大樹（自立支援協議会）</p> <p>菅野麻美（太陽の園地域包括支援センター）</p> <p>田村弘志（多摩区社会福祉協議会）</p> <p>中村健（多摩区医師会）</p> <p>初田温子（区民委員）</p> <p>古谷欣治（多摩区町会連合会・中野島地区社会福祉協議会）</p> <p>森本千恵美（区民委員）</p> <p>山口正芳（区民委員）</p> <p>吉田稔（多摩区商店街連合会）</p>
	事務局	<p>石本孝弘（区長）</p> <p>齋藤俊啓（福祉事務所長）</p> <p>鈴木宣子（地区支援担当課長）</p> <p>曾我利江（地区支援担当係長）</p> <p>池上洋未（同）</p> <p>正木久美子（地域サポート担当係長）</p> <p>久保田文夫（児童家庭課長）</p> <p>山口孝子（高齢・障害課長）</p> <p>安藤菜穂子（保育所等地域連携課長）</p> <p>岩上雅博（企画課長）</p> <p>太山和枝（みまもり支援センター担当部長・地域ケア推進担当課長）</p> <p>石垣秀之（地域ケア推進担当係長）</p> <p>加藤秀隆（地域ケア推進担当）</p> <p>今川明（地域ケア推進担当）</p>
欠席委員 （事務局）	<p>塚本和秀（支所長）</p> <p>増田素子（保護第 1 課長）</p>	<p>川辺千織（衛生課長）</p> <p>小松英光（学校地域連携課長）</p>
議 事	<p>（1）平成 29 年度多摩区地域包括ケアシステムの推進に向けた取組について</p> <p>①生田地区「生田ご近所パワーアップ会議」について（資料 4）</p> <p>②菅地区・登戸地区・稲田地区の町内会・自治会ヒアリングの結果について（資料 4）</p> <p>③中野島地区の取組について（資料 4）</p> <p>（2）地域福祉計画について（資料 5～6）</p> <p>（3）地域住民懇談会について（資料 7）</p> <p>（4）その他</p>	
傍聴人の数	0 名	

配付資料	<p>会次第</p> <p>資料1 座席表</p> <p>資料2 委員名簿</p> <p>資料3 多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱</p> <p>資料4 平成29年度多摩区地域包括ケアシステムの実現について</p> <p>資料5 第5期多摩区地域福祉計画の素案について</p> <p>資料6 平成29年度第5期多摩区地域福祉計画策定スケジュール</p> <p>資料7 地域住民懇談会 実施報告</p> <p>○第5期多摩区地域福祉計画素案（冊子）</p>
------	--

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局 (太山部長)	第3回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 開会の挨拶。 会議録のための録音設置、傍聴者等の説明。
石本区長	区長より挨拶。
事務局 (太山部長)	続いて、座長選出を行う。前回の会議に引き続き、和委員にお願いしたいと思うが、いかがか。 (一同承認) それでは、この後の議事の進行は和委員にお願いしたい。よろしく願います。
和座長	それでは、次第に従って議事を進行する。 議事(1)平成29年度多摩区地域包括ケアシステムの推進に向けた取組について、事務局より説明をお願いします。
事務局 (今川)	議事(1)平成29年度多摩区地域包括ケアシステムの推進に向けた取組について、 資料4 平成29年度多摩区地域包括ケアシステムの取組についてに基づいて説明。
和座長	ありがとうございました。 何かご意見・ご質問等はあるか。
中村委員	「生田ご近所パワーアップ会議」はどこでやったのか。
事務局 (今川)	生田出張所である。
和座長	他にいかがか。
有北委員	②の菅地区・登戸地区・稲田地区は広いエリアで、それぞれ状況も違うところもあるかと思うが、この3地区をまとめてやった意味と、それから、この②は今後どういう動きにつながっていくのか。
事務局 (石垣係長)	菅地区・登戸地区・稲田地区と今は取りあえずまとめてあるが、昨年度から地域みまもり支援センターができ、地域包括ケアシステムを推進する中で、昨年度はかりがね台を中心とした生田地区、それから中野島地区の多世代つながり愛運動を中心に進めていた。今年度は社協地区5地区を中心に進めていく中で、この3地区をどうしていこうかというところがまだ決まっておらず、ヒアリングを通じて課題等を把握し、それを基に区役所が今後どのように取り組んでいくかを定める基礎調査の位置付けで進めている。 菅地区の場合は、菅地区だけで菅町会という組織があり、登戸地区の場合は10町会とマンションの管理組合2地区、稲田地区は8町会あり、それぞれ大きさも異なり、やり方も違う。先ほど今川も申したとおり、町内会・自治会の沿革が開発で急にできたところとずっと住んでいるところで全く違うので、そういう状況も聞きながら、この地域ではどういう切り口で自

発言者	発言要旨
	<p>治会なり、その周辺住民に寄り添っていけばよいかということ、まず町内会長・自治会長にヒアリングをし、直接お話を聞いて把握したいということで始めた。今後進めていくときには、より細かい視点できめ細やかな対応をしていきたいと考えている。現在、それぞれの町会がこんな感じであるという資料の示し方はできないので、一旦このようなまとめ方をさせていただきます。</p>
有北委員	<p>ありがとうございます。</p>
和座長	<p>今の議論の中、最後のスケジュールで全部の地区の動きにおいてヒアリングを行っている中でも、既にカフェがスタートする等様々な動きがある。こういうヒアリングは地域の方々が自分事に意識化される、とてもよいアクションなので、これからいろいろな動きが出てくると思う。</p> <p>他にいかがか。</p>
山口委員	<p>2番目の最後のまとめで、町会活動の延長が地域包括ケアシステム推進ということで大体話がまとまってきているのだろうけれども、多摩区を5つか6つに分けてやるということではなく、やはり町会がこれから一番の核になってくるのではないか。何をやるにも町会ということになるので、今回、町会についていろいろ調べることができたから、今後は町会の特徴に合わせた地域包括ケアシステムの推進について更に考えてもらいたいと思う。</p>
事務局 (太山部長)	<p>ありがとうございます。地域の方たちも自分たちが顔の見える関係であると、山口委員がおっしゃったように、やはり生活している中で町会や自治会の範囲が一番身近なものだと思っているので、私たちも町会の活動を支えながら、町会の皆さんが今、課題と感じていることに寄り添いながら一緒につくり上げていければと思っている。ご意見ありがとうございました。</p>
和座長	<p>今、山口委員からご発言があったように、町会単位というのはもちろんとても大事だと私は思っているが、大学がある隣の麻生区でいろいろな取り組みをさせていただいている中で、元気のいい町会と、全然動きのないところと、あともう一步のところをA・B・Cで地域診断をやらせていただいている。多摩区ではどういう仕掛けをしていけば、これからもう少し元気になってほしいところと、もう一押しのところにかきつけづくりができるのか。多摩区は多摩区版で何かできるといいのかなと思う。ありがとうございます。他に何かあるか。</p> <p>それでは、続いて議事(2)に行きたいと思う。地域福祉計画について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局 (加藤)	<p>議事(2) 地域福祉計画について、 資料5 第5期多摩区地域福祉計画の素案について 資料6 平成29年度第5期多摩区地域福祉計画策定スケジュールに基づいて説明。</p>

発言者	発言要旨
和座長	<p>ありがとうございます。今、ご説明していただいた内容で何かご質問または意見等はあるか。事前にお目通しいただいていると思うので、コラムのところなどは委員の皆さま方も関わられている方が多いと思うが、その辺からでもよろしいので、いかがか。</p> <p>それでは、座長という立場だが、口火を切ってもいいか。前回の会議でも目を通したと思うが、計画の素案の75ページ、76ページ、要は計画の体系で事業一覧というのがある。基本理念があり、基本目標があり、基本方針があり、取り組みというカテゴリー分けがされているが、これをよく見て次の76ページに目を移していただきたい。基本理念は「多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区」でよいと思うが、基本目標2で「多世代交流でつながる地域づくり」とある。多世代と言いながら、基本方針の2「地域活動・交流の場づくり」の36「パサージュ・たま」は区役所の1階のアトリウムで障害を持たれている方々の活動である。また、48の障害者の社会参加の活動は多世代かなと感じる。75ページに戻っていただいて、障害を持たれている方々の活動を例えば基本目標1「多様な主体が参加する地域づくり」の中に入れていただけるとよいと思う。基本方針1の「誰もが参加できる健康いきがづくり」に変更していただくと収まりがよいと思うが、いかがか。</p>
事務局 (石垣係長)	<p>ご指摘ありがとうございます。こちらで当初考えたのが、基本目標2の基本方針2「地域活動・交流の場づくり」ということで、「パサージュ・たま」については皆さまご存じかもしれないが、この1階のアトリウムで障害者施設の方たちが一堂に集って物品の頒布会等を行うことによって地域と交流する場になっている。そういう面から交流の場づくりに位置付けさせていただいている。同じように障害者の社会参加ということで、障害者を障害者として、くくるのではなく、地域の中に入っていただいて、障害を持ったまま地域の中で一緒にということでの交流の場という表現をさせていただいている。座長のおっしゃるように誰もが参加できるという言葉も地域の中に溶け込むという意味では同じかと思うので、もう一度検討させていただきたいと思う。</p>
和座長	<p>ありがとうございます。今日は第3回目の会議だが、第1回と第2回でいろいろ多摩区の活動一覧を見せていただいて、子育て分野はとて多いが、障害分野はそれほど多くないと感じた。多摩区役所の1階でやっている「パサージュ・たま」については、区役所でこういう活動をやっているのはなかなか珍しいと思う。先ほどのコラムの一覧で事業の説明のところに「パサージュ・たま」があったが、これも提案であるが、例えばコラムのところが多摩区の障害分野の活動の一つとして取り上げて等、もう少し障害分野があってもよいという感想である。</p>
事務局	<p>「パサージュ・たま」については、他の区役所ではしていない取り組み</p>

発言者	発言要旨
(石垣係長)	で、多摩区の一つの大きな自慢でもあるので大きく紹介していきたい。2020年のパラリンピックやパラムーブメントを踏まえても「パサージュ・たま」は大きな事業だと思うので、その辺も踏まえて検討させていただきたい。できるだけ前向きに載せるようにする。
和座長	ありがとうございます。他にいかがか。委員の皆さま方の取り組まれていることをコラムに出すなど提案があるか。
有北委員	お話ししてもよいかどうか、すごく悩んだのであるが、83 ページに多摩区で発行している冊子、リーフレットの写真が出ており、その真ん中に「多摩区公園BOOK」が載っており、企画課になっているが、これについては表の中では一言も触れていない。どうしてかという、これはもう2年ぐらい前に企画課と、たまたま子育てネットワークが共同で出した冊子で、この改訂版を出したいということを毎年企画課にお願いしているのだが、なかなかそれが実現しない状況がある。今、こうやって、ここに写真で取り上げていただいているのはすごくうれしいのだが、ある意味、複雑な思いもある。これが計画の中に入っているのであれば、ぜひ改訂版を作らせてほしいという思いもある。それで、お話しするのはどうかと思いつつも、この冊子は本当に区民の方たちが歓迎して、見ていてくださって、特に子育て世代は必要ということで、置いてあると持っていく、なくなる状態である。今後何らかの形で福祉計画に反映して、継続発行ができるとよいという小さな願望である。
事務局 (企画課長)	こちらについては今、区民会議で公園に関して議論している。そのことも踏まえてBOOKの改訂を実は考えている。ご要望に沿えるように動いている。申し訳ないが、こちらの記載についてはまた担当と協議させていただくのでよろしく願います。
有北委員	ありがとうございます。
和座長	他にいかがか。
大津委員	1つだけ素朴な質問である。資料4の1枚目の第2グループの下にマスのところがある。アイテムの書き出し、一番左側、一番下の行に「主催者が楽しむこと」とあるが、ここで言いたい主催者はどこのどなたを意味するか教えていただきたい。
和座長	1つ議題が戻ったが、資料4の一覧表「課題とアイデア」のアイデアの一番下であるが、願います。
事務局 (今川)	これは具体的にグループワークをしている中で出てきた意見だが、町会・自治会のお祭りなどいろいろな企画をやっている中で、主催者は町会自身を指していらっしゃる。町会の方々が、「自分たちが楽しんでやっているということが周りに伝わっていけば、参加者も自ずと集まってくるだろう」という趣旨でご発言されたものである。
和座長	続いて議事(3)地域住民懇談会について、多摩区社会福祉協議会地域課の川澄委員より説明を願います。

発言者	発言要旨
川澄委員	議事（3）地域住民懇談会について、 資料7 地域住民懇談会実施報告 に基づいて説明。
和座長	ありがとうございました。 この件について何かご質問やご意見等はあるか。
吉田委員	聞いていた半ばごろに「学校関係は個人情報取り扱いが厳しく、知らない人にあいさつをしてはいけないということを教えられている」とある。これは少しおかしいと思う。あいさつは当たり前だと思う。それが駄目になったら、人間関係のつながりが全然なくなってしまう。こう言われるのだったら、あいさつをしてみんなで見守ってあげればいい。そうすれば泥棒などは絶対に起きない。個人情報と言っているが、これは少しおかしいと思う。その前には「町会・民生委員のあいさつを当たり前だと思っている」とある。これは矛盾がものすごくある。皆さんはこれをどう考えているのか。私は、これは当たり前だと思いたい。私は多摩商連で全体を見ているが、隣近所は知らない人でもあいさつは当たり前である。それをもう少し具体的に、子どもに対してどういう指導の仕方をしていくか。われわれ大人がきちんと指導しなければいけないと思う。知らない、知らないでは駄目である。
和座長	ありがとうございます。何かあるか。
川澄委員	相対するご意見であったが、確かに各地域であいさつ運動に取り組まれているのは事実で、ほとんどのところではお互いに声を掛けられるようになった。今の「知らない人にあいさつをしてはいけない」と教えているというお話は本当にごく一部のところであり、決して誤解のないようお願いできればと思う。あいさつ運動はこれからも継続してやっていきたいという声も随所であったことを併せてご報告申し上げたい。
事務局 (太山部長)	吉田委員さんのおっしゃることは当然だと思う。ただ、今、世の中でいろいろな事件があり、そういうことも言われているのを聞いたことがあるという方のご意見だと思うが、また小学校長会、中学校長会等にも出席して呼び掛け等、ご協力等も伝えていければと思う。貴重なご意見をありがとうございました。
吉田委員	ぜひ先生に徹底してもらいたい。うちのお客さんも先生がいっぱい来ているが、そのような話は全然聞かない。
森本委員	2番目の「地域の課題について」ということで、上から7番目の「障害者施設の利用者が駅前などでごみ拾い活動をしている。地域とのつながりをつくるきっかけにしていきたい」という表記があるが、先ほどのコラムの件で「パサージュ・たま」等の障害者の社会参加をコラムに載せるというのは私も同意見である。もし差し支えなければ、複数の障害者施設でやっているのか、全く単数でやっているのか。障害をお持ちの方が地域の中で暮らしていくのはとても困難なことだと思う。私たちもそういうことを広く知っていききたいと思うので、教えていただけるか。複数か単数か。ど

発言者	発言要旨
	のような法人が、またNPOがやっていらっしゃるのか。
川澄委員	地域住民懇談会の中で住民の方からのお話だったので、どこの施設ということまで具体的に細かくは伺わなかったが、伺ったお話は確か読売ランド駅前だったかと思う。そちらのほうで定期的に駅の周りのお掃除の活動をされているということをご紹介して下さった方がいらっしゃったということである。
森本委員	その地域のエリアということか。
川澄委員	恐らく近くではないかと思う。
森本委員	ありがとうございます。
和座長	他にいかがか。
田村委員	中野島の田村である。あいさつ運動をプロジェクトとして大々的にやったときに、学校から今、吉田さんがおっしゃったようなことを聞いていた。誘拐などいろいろなことがある時代だから危ないと。そして、中学校1校、小学校2校の私たちの地域で学校の先生を含めてその委員会が立ち上がった。実際に標語の缶バッジを作り、安心してあいさつができるようにしようということで横断幕を作り、小学校2校と中学校と中野島の駅前に張り付けてある。あいさつできる環境をつくろうということが初めの課題だったので、その第一歩目は済んでいる。あとは、皆さんもご存じだと思うが、学校に行くとき本当に初めから廊下ですと子どもたちがあいさつをする。しかし、外に出てくると何でしないのだろうと思うが、やはり大人が「おはよう」と言えば子どもたちも「おはようございます」と言う。この間、驚いたのは、交番の前に子どもたちがお巡りさんに対して「おはようございます」と言ったら、交番のお巡りさんも「おはようございます」と言っていたので、かなり効果が出てきていると思っている。以上である。
和座長	ありがとうございます。他にいかがか。
有北委員	この素案を見て改めて感じたことがある。私は他の仕事で昨日、桜本のふれあい館に行ったが、ここは多文化共生、多世代交流、子ども・若者支援に地域で長年しっかり取り組んでいるところだった。そこで感銘を受けたのであるが、例えば学校と福祉と地域の連携による子どもの学習の保障ということで、最近話題になっている貧困家庭の子どもたちの学習の保障に取り組んでいる。また、子ども食堂もやっており、貧困家庭の子どもだけではなく、誰でも来てよい食堂である。子どもはなかなか自分からSOSを出せないで、「誰でも来ていいんだよ」というところに来て、安心して、そこで子どもの様子を見守るスタッフがいて、その中で一人一人のSOSに気付いていくことが大事だというお話だった。貧困家庭の子どもをどうかして助けるということではなく、本当に子ども全体、それから子どもの保護者の生活も含めた家庭支援がなされており、これが本当の地域の連携ということなのだと思います。今回のこの地域福祉計画の中には、あまり多文化や子どもの貧困などの面が具体的なものとしては入っていないのでは

発言者	発言要旨
	ないかという気がした。私の読み落としがあったら申し訳ないが、その辺りはいかがか。
事務局 (石垣係長)	<p>有北委員のおっしゃるとおり、多文化共生という視点が実は欠けているのではないかということは今、改めて認識したところである。ただ、多様な主体ということで、いろいろな人が地域にいるという前提に立った上では多文化というものも一応含まれているとは思っているので、言葉として入れられるかどうかは検討させていただきたいと思う。</p> <p>子どもの貧困については、まずこの地域福祉計画の多摩区版は冒頭ご説明を何回かさせていただいているが、地域福祉計画自体は川崎市の地域福祉計画が法定の計画になっている。各区の計画については、それぞれ個別の区ごとに施策として進めていく上での計画という位置付けになっており、子どもの貧困対策についてはこども未来局で市として実施しているので、区の計画に反映していないのが現状である。</p>
有北委員	ありがとうございました。
和座長	<p>他にいかがか。よろしいか。</p> <p>それでは、最後に議事（４）その他について、事務局より説明はあるか。</p>
事務局 (太山部長)	特にない。
和座長	<p>以上で、議事は終了する。</p> <p>それでは、進行を事務局へお渡しする。</p>
事務局 (太山部長)	<p>和座長、議事の進行をありがとうございました。皆さまのご協力ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の会はこれにて閉会する。閉会に当たり、齋藤福祉事務所長からご挨拶申し上げます。</p>
齋藤福祉事務所 所長	閉会の挨拶。
事務局 (太山)	これにて第3回多摩区支え合いのまちづくり推進会議を閉会する。ご協力ありがとうございました。
	閉会

以上